

2023年度

入学試験問題
(A日程午後)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/6から6/6まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^{らん}に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

雲雀丘学園中学校

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1・2)は段落番号です。)

① いま本をネットで買う人が非常に増えています。書店にはほとんど行かず、もっぱらアマゾンで本を購入するという人も少なくありません。そうした影響もあって、書店がどんどん減っています。2000年に全国に2万1495店舗あった書店は、2015年には1万3488店舗にまで減っています。

たしかにネットで買い物をするのは非常に便利ですが、いろいろな副作用もあります。宅配便業界はネット通販の取り扱ひ量が爆発的に増えたため、人手不足に陥り、また長時間労働によって疲弊するドライバーが急増しています。

荷物を運送するトラックの稼働時間が延びているため、排出されるCO₂の量も増加しています。これからも通販の市場は一層拡大していくでしょうから、運送業界は抜本的な対策が必要になるでしょう。

買い物は実際に現物を見て購入すると、ネットで口コミなどの情報を見ながら買うのでは、やはり違います。わざわざ足を運び、視覚や手触りなどを総動員して買うのと、不確かさを残しながらネットで買うのでは、ものに対する思い入れも変わってくるはずですが。

本であれば、装丁や目次を見たたり、中身をばらばらめくってみたりと、じっくり吟味ができます。

② 書店で本を買うよさはそれだけではありません。書店の面白いところは、いろいろな人(著者)と出会える点です。私は書店に行くとき、実際さまざまな人に会いに行くんだという、どこかわくわくするような気持ちを持っています。

書店ほど、ものすごい数の人に出会える場所はありません。「ああ、ありふれたテーマでも、こんなに多くの人がそれぞれの立場で発言しているのか」とか、「へえ、こんな珍しいテーマを真面目に研究しているのか」といった、思いもよらない出会いもたくさんあります。

時間に余裕があるときは、ふだんあまり見ることのないジャンルの棚なども眺めてみる。A、「こんなすごいことがこの業界で起こっているのか」といった発見をしたりもします。

そういう偶然の出会いには、ネットでは体験できない書店ならではの楽しさだと思います。偶然の出会いというのは、人でもそうですが、それを大切にすることで、その人にとって意味ある面白いものにするることができます。

それまで知らなかった著者や作品と書店で偶然に出会うことは、その人の関心の領域を間違いなく広げてくれます。思いもよらない形で好奇心の幅が広がる喜び、それを堪能させてくれるのが書店のよさなのです。

② セレンディピティ(serendipity)という言葉があります。素晴らしい偶然に出会ったり、予想外のものを発見するという意味の言葉ですが、本をよく読んでいると、このようなセレンディピティは起こりやすくなると思います。

セレンディピティはいろいろな人と出会ったりして知見が高まると、起こる頻度が高まるといわれます。本を読むのも、いろいろな人(著者)と出会って付き合うことです。したがって本をよく読んでいる人は、セレンディピティを一層招きやすくなるのではないのでしょうか。

読書をするとなかになかに引き出しがたくさんでき、問題意識が生まれます。つまり思考の棚に、さまざまなフックができるのです。フックがなければ素通りしてしまうようなことも、フックがあれば、他人と同じものを見ても引つかかって、そこから新しい展開や可能性が開けたりします。

たとえば、ふだん歴史書を好んで読んでいる人が取引先の担当者と話をしていたら、たまたま相手も歴史に関心があり、中世の歴史に詳しいことがわかった。そうした共通の関心からお互いの距離が縮まり、新しい仕事をどんどんくれるようになった。B 農業に強い関心を持った人が、その関連の本を買ってきて勉強をする。するとさまざまな問題があることがわかり、それをいかに解決するかという問題意識を持つようになる。そして、その問題意識から農業で新しいスタイルのビジネスを思いつく……。

このようなことは、④です。もちろん自分のなかにいろいろな引き出しや問題意識を持つていても、行動が伴わなくては、せっかくセレンディピティが起きても生かせないこともあります。

ですからセレンディピティが起きたときは、それに応じた行動をすることが大事だと思います。本との偶然の出会いには、現実起こる幸運な出会いを常にはらんでいるのです。

セレンディピティの話をしたので、ついでに運やツキとは何かということについても考えてみたいと思います。生きていけば毎日のように、「ああ、ツイているな」とか「ツイてないな」といった小さな出来事が起こるでしょう。

仕事に行くとき、電車に乗り遅れ、しかも乗った電車が信号機の故障で止まってしまった。一日の始まりにそういうことが起きると、暗い気持ちになる。するとツイてないと思うことが、また起こったりする。反対に人の親切に触れるなど何かいいことがあると、今日はツイてる日だと思う。すると、いいことが続いて起こったりする。

こういうことは誰でも経験するのではないのでしょうか。要は気を持ちようで運は微妙な変化をするということです。

この世界は、神様が上から見ていて、あいつには運を与えようとか、罰としてツキを取り上げようとか、そういう天の配剤で動いているところではありません。

たしかに、宝くじで大金が当たるような偶然としかいいようのないこともあります。C、宝くじに当たった人が本当に幸せかというところ、意外とそうでなかったりする。アメリカで宝くじで大金が当たった人のその後を追跡調査したところ、家族や友人関係が悪くなったりして、結果的には以前よりも不幸になったケースがかなり多かったそうです。宝くじに当たったこと自体はツイていても、その後の生き方や考え方が変わることによって、不運を招いたりするわけです。

すなわち、運には「偶然の運」と、本人の生き方や努力によって変わりうる「偶然ではない運」があるのだと思います。

当たり前のことですが、真面目にいい仕事をし、邪な発想をせず、人のことも常に考えられる人に運は微笑むでしょう。もちろん、いろいろな

経験を積んだり、さまざまな本を読むことで人間というものを深く知ることも、そこに関わってくるのだと思います。

そんな人は周りから評価されるし、信用もされる。そのために多くのチャンスを与えられるのです。

だから、自分は「運がないな」「ツイてないな」としよつちゆう感じている人は、セレンディピティが訪れるように、セレーン (serene / 穏やかな) な、読書というひとときを持つといいかもしれません。

(丹羽宇一郎『死ぬほど読書』)

*アマゾン……インターネット通販サイト。

*CO₂……二酸化炭素。

問一——線部①「いろいろな副作用」とありますが、本文に挙げられた具体例として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 商品を遠くまで輸送することが増えたことで、商品を発送するのに大きな遅れが生じてしまっている。
- イ 商品を輸送する宅配業界では働き手が足りず、ドライバーの労働時間が増えて健康面が心配されている。
- ウ ネット通販の利用者の増加にもなってトラックの稼働台数も増え、深刻な環境問題に発展している。
- エ 多くの人がネット通販を利用するようになったことで、注文が倍増し在庫が少なくなってしまうている。

問二——線部②「書店で本を買うよさはそれだけではありません」とありますが、これについて次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 「それ」の指す内容は何ですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
 - ア 実際に手に取ってよく見て購入することで、その本に対する思い入れが強くなるということ。
 - イ 現物を見ることで、表紙や目次などからその本の価値を判断するようになるということ。
 - ウ 書店に足を運ぶことで、口コミなどの情報ではなく正確な情報が明らかになるということ。
 - エ 実物を手に取り中身をめぐることで、あらずじを理解して本を購入することになるということ。
- (2) 「書店で本を買うよさ」を説明した次の文の(Ⅰ)～(Ⅲ)にあてはまることばを、それぞれ指定した字数で本文から探し、書きぬきなさい。()。「」は字数に数えます。

書店で本を買うよさは、珍しいテーマを研究している人や普段は読まない作品との(Ⅰ 六字)によって、(Ⅱ 三字)の幅や関心の領域が広がる(Ⅲ 二字)を味わわせてくれることである。

問三 本文の [A] [C] にあてはまることばとして適当なものを次のア～クから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しかし イ だから ウ つまり エ すると オ ところで カ さらに キ あるいは ク たとえば

問四——線部③「思考の棚に、さまざまなフックができる」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 物事の問題点を理解し、自分の状況に当てはめられるようになるということ。
- イ 幅広い知識を持つことで、多くの問題を解決できるようになるということ。
- ウ 自分の中に知識が増え、世間の出来事を見過ごさないようになるということ。
- エ 物事の要点を見つけることで、簡単に失敗をしないようになるということ。

問五 ④ にあてはまることばとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア いつも人と関わっていないと気づかないセレンディピティ
- イ 歴史に精通していないとわからないセレンディピティ
- ウ 農業を営んでいないと感じられないセレンディピティ
- エ 本を読んでいなければ生まれないセレンディピティ

問六——線部⑤「電車に乗り遅れ、しかも乗った電車が信号機の故障で止まってしまった」について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) このような状況を表した慣用句として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
 - ア 瓢箪から駒 イ 七転八倒 ウ 身から出た錆 エ 泣きつ面に蜂
- (2) 次の() に適切な漢字一字をあてはめ、Ⅰ～Ⅳの慣用句を完成させなさい。
 - Ⅰ 病は() から Ⅱ () ある鷹は爪を隠す Ⅲ 人の() に戸は立てられない Ⅳ 親しき() にも礼儀あり

問七——線部⑥「運には『偶然の運』と、本人の生き方や努力によって変わりうる『偶然ではない運』がある」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 運とは、行動の結果として現れるものであり、どれだけ良いことをしたかで決まるものであるということ。
- イ 運とは、自力で操作するだけではなく、自分の行いに対して神様が与えてくれるものであるということ。
- ウ 運とは、宝くじのような確率的なものであり、自分の力だけではどうにもできないものであるということ。
- エ 運とは、あらかじめ決まっているだけではなく、気の持ちようで引きよせられるものでもあるということ。

問八——線部⑦「読書というひとときを持つ」とありますが、運がないと感じている人になぜ読書は必要なのですか。解答らんに続くように四十字以内で答えなさい。()。「」は字数に数えます。

問九 本文の特ちょうを述べたものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 「です・ます」調で書くことで、読者に身近な問題であることを示している。
- イ 一文を長くすることで、主張に一貫性を持たせようとしている。
- ウ 筆者の主張に専門用語を多く用いることで、説得力が増している。
- エ 具体例を多く用いることで、筆者の主張が理解しやすくなっている。

問十 本文を読んで、A～Cの三人が話をしています。この会話を読み、(Ⅰ)～(Ⅲ)にあてはまることばを答えなさい。ただし、

- (Ⅰ)・(Ⅲ) は本文からそれぞれ二字で探して書きぬき、(Ⅱ) は最も適当なものをあとのア～エから選び、記号で答えなさい。
- Aさん：(Ⅰ) をするとセレンディピティが起こりやすいということはよくわかったけれど、それ以外で起こることはないのかな。
- Bさん：それはいろんな場面で起こりそうだよね。ある意味、(Ⅱ) なんかもセレンディピティの一種なんじゃないかな。
- Aさん：どうしてそれがセレンディピティと言えるの？
- Cさん：(Ⅱ) の中には、失敗だと思ったことから偶然生まれた成功もあるからじゃないか？
- Aさん：なるほど、その成功自体がセレンディピティってことか。
- Bさん：そういうことさ。不意に成功にたどり着くこともあるという点では、失敗を積み重ねることも、決してむだではないんだね。
- Cさん：それってすごく大切なことだよ。だから失敗することがあっても、まずは(Ⅲ) することが大事ということなんだと思うな。
- Bさん：そういう意味では、段落①の書店の話に少し似ているね。実際にいろんな本を手にとるといって(Ⅲ) をしたときに出会いが生まれているわけだからね。

- (Ⅱ) の選択肢 ア 偉人の発明 イ 遺跡の発掘 ウ 迷ったときの直感 エ おみくじの結果

二 次の文章①を読んで、あとの問いに答えなさい。

「優」は、小学校三年生の時に出場したマラソン大会での事故がトラウマになり、毎年大会に出場登録をするも棄権していた。六年生になった今、そんな自分を変えたいという気持ちから練習に取り組み、成果が表れてきていた。

① 「はえー」

「すげー」
 自分への感嘆の声が飛んでいる。
 校庭を三周もすると、もうだれも優についてくる者はいなかった。優は一段また一段とギアを上げていった。抜いて、抜いて、抜いて。優は自分が周回遅れにした全員を抜いていった。どこまでも走れる、そんな気がしていた。
 中庭を回るコースは途中で渡り廊下を横切る。いつもは置かれているすのこをよけて、優は走っていた。マラソン句間は、きょうで終わり。優は勢いに任せて、すのこを飛びこえた。
 ズキッ。

左足がコンクリートについた瞬間、にぶい音がした。ズキキン、ズキキン、ズキキン。心臓が足首に移動したのではないかと思うほど、強烈な痛みが足首に走った。(中略)

「あたし、世奈と、優が次のマラソン大会に出場するかしないか賭けをしたの。あたし、出場しないほうに賭けたんだよ」

*美羽は自分の覚悟を確認するように続けた。

「賭けに負けたら、マラソン大会に応援に行くって世奈と約束したんだ。だから、あたし、マラソン大会に行くね。応援っていうか、優のコーチに会いに行こうかなって……」

優はだまって美羽の話聞いていたが、急に顔色を変えた。包帯の巻かれた足首をじっと見ながら、やっと聞こえるような声で答えた。

「美羽の勝ちだよ。だって、ぼくは出場しない」

「え？」

美羽の口がぽかんと開く。

「だって、ねんざは二週間くらいで治るって、世奈から聞いたよ。どうして？」

美羽が体を乗り出した。

(あたし、賭けに勝ったってこと……？)

不思議だった。美羽はまったく喜ばなかった。

世奈の初恋の相手かもしれない優のコーチに会いたい。それがカムフラージュなのは自分でもわかった。自分は、縁を切ったと思っていたマラソンを見に行きたいのだ。それが美羽の本心だった。

なんで？ どうして……と聞きたい気持ちをおさえるように、美羽は質問をのみこんだ。ただ、じっと優を見つめる。

「こわいんだ……」

優の口から、弱々しい声もれた。

「スタートラインに立ったら、どうなってしまうのかわからない。もし、また棄権したらどうしよう。それに、ことしは優勝とか言われてよけいに……」

そこからのあとの言葉が続かない。優は窓から校庭を見渡した。颯太や駿の走る姿が目飛びこんでくる。走れなくなって、たった一日なのに、もう走りたいと思う自分がある。でも、今、出場を取り消せば、キッカーズにも迷惑はかけないですむ。走れなくなって、ほっとしている自分もある。

(これでよかったんだ。ねんざして……)

美羽には、優の気持ちを手にとるようにわかる。プレッシャー……。まわりの期待に、優は押しつぶされそうになっているのだ。

母から聞いた兄のようすも同じだった。優勝を期待されて、プレッシャーに苦しんでいた。迷惑をかけたくない。期待を裏切りたくない。まじめな性格だからこそ生まれる葛藤と、いつも戦っていた。やっぱり優は兄に似ていると美羽は思う。

「優は走れるよ」

(だって……優は生きてるじゃん！)

美羽は心の中で叫んでいた。涙があふれ、ぼたぼたと流れ落ちる。

(おにいちゃんも走らなかった。おにいちゃんは走らなかったんだ……)

なのに自分はマラソンから目をそらしてばかりいた。兄がこれほどまでに打ちこんだマラソンから……。

優にわからないように涙をぬぐうと、美羽は自分の頭を冷やすように窓を開けた。冷たい空気が教室に流れこんだ。

「手続きが終わったところ、迎えに行くから、体育館の中で待ってて」

そう言って母は車を発車させた。週末、マラソン大会の出場をキャンセルするため、優は母に車で送ってもらい体育館に来た。

体育館の前からグラウンドが見える。日が暮れるまでには、まだ時間があつた。

(夕方になる前に帰ろう)

優は先輩に会いたくなかった。合わせる顔がなかった。ねんざのことを先輩が知ったらどう思うだろうか。

ねんざをした日、優はどうかしていた。いつもは、準備運動をしてから颯太たちより遅れてスタートをしていた。でも、あの日、みんなからちやほやされて、それすら忘れていた。自業自得だった。

包帯を巻いた左足を、優は大げさにかばって歩いていく。でも本当は、もう普通に歩けるまでに回復していた。それどころか、医師からも大会に出てもだいじょうぶと、太鼓判まで押されていた。

先輩を追って必死に走った夏の日が遠く感じられる。青々と茂っていたグラウンドの落葉樹の葉はすべて落ちた。足元の黒く変色した落ち葉を踏みつけながら、優は足を引きずって歩く。

(もう先輩といっしょに走ることはないかもしれない。ぼくは、だめだ。やっぱりぼくは……)

このグラウンドも見納めかもしれない。そう思っふと顔を上げた優の足が止まった。

グラウンドに一人の少年が見える。太った体を引きずるように走っている。歩夢だった。

「あ、優！ はあはあはあ」

優を見つけた歩夢が、きつそうに、それでも満面の笑みで手を振る。

優は歩夢が落ち着くのを待って、前からずつと聞きたかったことをたずねた。

「歩夢、マラソン大会にことしも出るんだよね。毎年、あの……」

言葉を選んでみると、優の質問を歩夢が引き継いだ。

「なんで、毎回、びりなのに、あんなに苦しうなのに走るの？ でしょ」

そんなこと決まってる。そんな目で歩夢は優の顔をまっすぐに見て言った。

「ぼく、走ることが好きなんだ。それだけだよ」

「えっ？」

優は啞然とした。歩夢が走るのには、何か複雑で深刻な理由があるのかもしれないと思っていたのだ。

「ぼくって、こんな体だろ。スポーツはどれもこれも苦手だし、チームプレーはほかの人に迷惑かけちゃうしね。でも、走ることならできる」

そう答える歩夢の目には、一点の曇りもない。

⑦「それに、ゴールできたときは、本当に気持ちいいしね。次のマラソン大会の目標も『完走』だよ」

優には目の前の歩夢がまぶしく見えた。

「優の目標は？」

歩夢の質問は、優の胸を打ち抜いた。

(ぼくは、今まで何してたんだろ。自分らしく走ればいい。順位なんか関係ない、今の自分のベストをつくす。ぼくの目標は……)

「ぼくも、完走が目標だったんだ」

優は夏、田舎で逃げ水を追ったあの目を思い出した。走る意味を知ったあの目を。

「ぼくたち、目標、同じだね」

優と歩夢は顔を見合わせて笑った。

⑨優は、足首の包帯をはずした。

(岡田潤『幽霊ランナー』)

* 世奈・美羽……優の同級生。

* 優のコーチ……本文の「先輩」と同じ。優に走り方を教えてくれている。

* 颯太・駿……優の同級生。学校のサッカーチーム「キッカーズ」の仲間。キッカーズは毎年チームでマラソン大会に出場し、好成績を目標としている。

* 兄……美羽の兄。病気で亡くなっている。

* 歩夢……優の同級生。運動が得意ではない。

問一 ―線部①「どこまでも走れる、そんな気がしていた」とありますが、このときの優の様子を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア もう一度全員を周回遅れにできそうで、うれしくなっている。
- イ 全員を周回遅れにすることができ、自信に満ちあふれている。
- ウ まだ全力を出したわけではなく、体力的には余裕がある。
- エ これほどまで速く走れるようになり、自分に感心している。

問二 ―線部②「ぼくは出場しない」とありますが、優はなぜ「出場しない」と考えているのですか。四十五字以内で答えなさい。(、。。「」は字数に数えます。)

問三 ―線部A・Bの本文中での意味として適当なものを次のア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| A 「口がぼかんと開く」 | ア 驚きのあまり自分を見失っている |
| イ 突然のできごとにショックを受けている | ウ 状況がつかめずあつけにとられている |
| エ はり合いがなくあきれてしまっている | ア 心配いらなとはげまされていた |
| B 「太鼓判まで押されていた」 | イ 頑張ってこいと応援されていた |
| エ 問題はないと保証されていた | ウ 全力を出してもよいと認められていた |

問四 ―線部③「美羽はまったく喜ばなかった」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 賭けに勝ちこそしたが、実際は優の走るマラソン大会を見に行きたいと思っており、それがかなわないことになったから。
- イ 賭けに勝ちこそしたが、予期せぬことが関係したことで、世奈と正々堂々と勝負したという気になれないでいるから。
- ウ 賭けに勝ちこそしたが、以前から会ってみたいと思っていた、優のコーチに会えなくなってしまったのが残念だから。
- エ 賭けに勝ちこそしたが、優がマラソン大会を棄権することになった理由が、自分の予想していたものではなかったから。

問五 ―線部④「涙があふれ、ぼたぼたと流れ落ちる」とありますが、このときの美羽の心情を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 走れなくなってしまう兄と違い優は走れるのに、簡単にあきらめようとしていることに怒っている。
- イ 走りたい気持ちがあるのに走れなかった兄の姿を優に重ね、兄には走ってほしかったと悲しくなっている。
- ウ 走りたいという兄の気持ちを知っていながら、マラソンから目をそむけていた自分を情けなく思っている。
- エ 走りたいと思いつつも周りの期待に押しつぶされてしまった兄をあわれみ、気の毒に思っている。

問六 ―線部⑤「自業自得だった」とありますが、どのようなことを「自業自得」だと考えているのですか。三十字以内で答えなさい。(、。。「」は字数に数えます。)

問七 ―線部⑥「ぼくは、だめだ。やっぱりぼくは……」とありますが、このときの優の心情を説明したものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア どんなことに対してでも、自分が原因でいつもだめになってしまふ現実をつきつけられ、落ちこんでいる。
- イ せっかくな努力してきたのに、結局は大会を棄権してしまう自分の弱さを認識し、自信を失っている。
- ウ どれだけ努力しても、自分の力の限界を乗り越えることはできないとわかり、投げやりになっている。
- エ 何かに挑戦しようとしても、いつもかんじんなどころで努力をむだにしてしまふ自分にあきれている。

問八 ―線部⑦「優には目の前の歩夢がまぶしく見えた」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 走ることが好きだという理由だけで、苦しいマラソンにもたえられている歩夢に不思議な力を見出したから。
- イ たとえ毎年最下位であっても、あきらめずに走りきることができている歩夢をうらやましく思ったから。
- ウ 好きなことをやっているだけで満足し、順位を気にしていない歩夢に底抜けの明るさを感じたから。
- エ 自分なりの目標を持ち、そこに向かってひたむきに努力する歩夢のまっすぐな姿勢に心を打たれたから。

問一

問二(1)	
(2) I	
II	
III	
IV	
V	
VI	
VII	
VIII	
IX	
X	

問三 A

B	
C	
問四	
問五	

問六 (1)

(2) I	
II	
III	
IV	
V	
VI	
VII	

問八

さまざまな本を読んだ人は、

問九

問十 I	
II	
III	

問二

問二	
問三 A	
B	

問三 A

B

問四

--

問五

--

問六

問七

--

問八

--

問九 (1)

--

(2)

--

問十 I

II

III

(1) 三

1 型

--

2 時

--

3 家

--

4 意

--

(2)

	5 トウロン	1 ナイカク
	6 ウツ	2 テツボウ
る		3 セスジ
		4 トウブン

受験番号
得点

問一 問二(1) (2) I 然 出 い II 奇 III び

問三 A B C 問四 問五

問六(1) (2) I II III IV 問七

問八 問九

さまざまな本を読んだ人は、
 知るこ と が 人 間 を 深 く
 か ら 信 頼 さ だ め き 、 周 囲
 く の チ ヤ ン ス 、 よ り 多
 る か ら 。

問十 I 書 II III 動

問二 問二 わ り か ら 期 待 さ れ て

ま わ り か ら 期 待 さ れ て
 い る の に 、 ま た 棄 権 し て
 て し ま っ た 、 安 が あ っ た
 う と い う 不 安 が あ っ た
 を 備 運 動 を 忘 れ 、

問三 A B
 問四
 問五

問六 わ り か ら 期 待 さ れ て
 れ て 準 備 運 動 を 忘 れ 、
 ね ん ざ を し た こ と 。

問七 問八
 問九 (1) (2)

問十 I る こ と が 好 き II レ ッ シ ャ ー III 分 の ベ ス ト を つ く す

(1) 三 型 時 屋 意

(2) 閣 棒 筋 分
 5 トウロン 6 ウツ
 1 ナイカク 2 テツボウ 3 セスジ 4 トウブン
 討論 映る